

乳がん

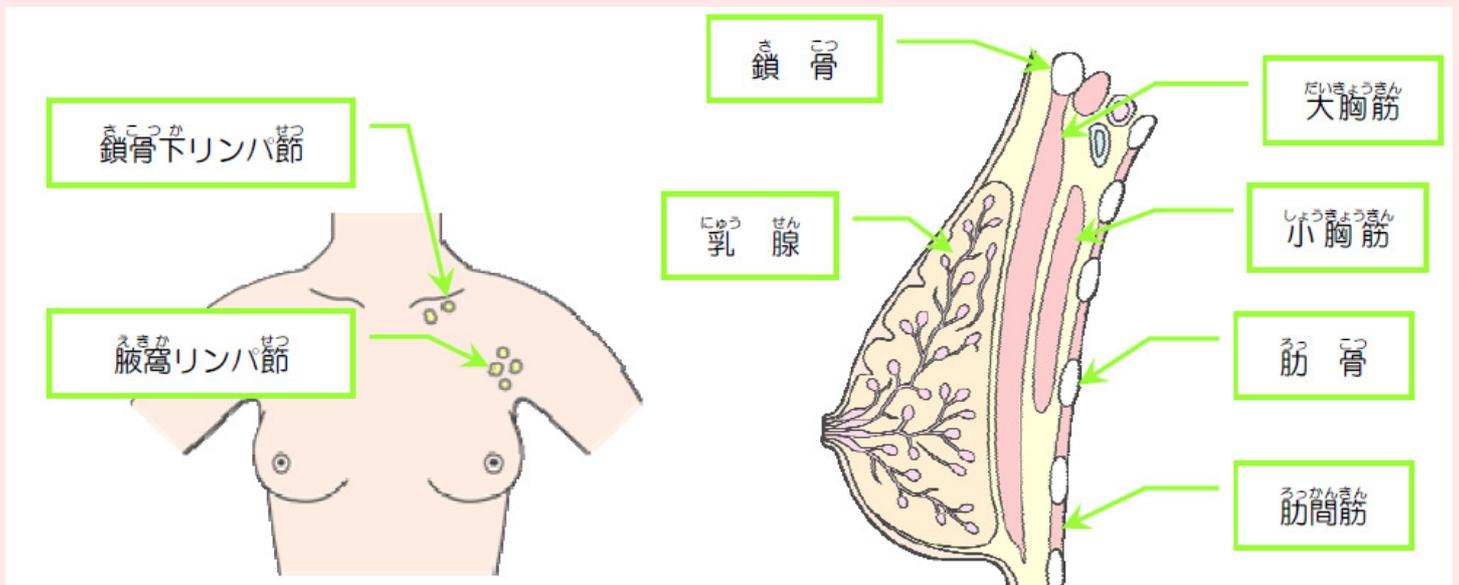


松阪市マスコットキャラクター
「ちゃちゃも」

作成：医事課

<病気について>

乳房にはりめぐらされている乳腺にできるがんです。40～50歳代の女性に多く、進行するとわきの下のリンパ節や、血流によって肺や骨など全身に転移しやすいので、早期発見が重要です。女性ホルモンの一種であるエストロゲンの分泌ががんの発生に関係しているといわれています。そのため、初潮が早い、閉経が遅い、出産をしていない、高齢出産、などの人はホルモンの影響を受けやすく、がんになりやすいとされています。



<症状>

乳房にできる硬いしこりが代表的な症状です。乳頭部分のただれや湿疹、乳頭から血液などが混じった異常分泌が見られることもあります。症状が進むとがんの周辺の組織がひきつれて、乳房や乳頭が変形することもあります。

<検査>

視診・触診

目で見て、乳房の形状、皮膚、乳頭の色などに異常がないか、また、手で触れてしこりがないかなどを調べます。

画像検査

マンモグラフィーでは乳房を上下左右から押さえて平らにする専用の器具を使って、X線で乳房の内部の状況を映し出します。

超音波検査

ゼリー状の液体を塗り、超音波をあてて乳房内を画像化して調べます。

せんしきゅういんさいぼうしん はりせいけん 穿刺吸引細胞診と針生検

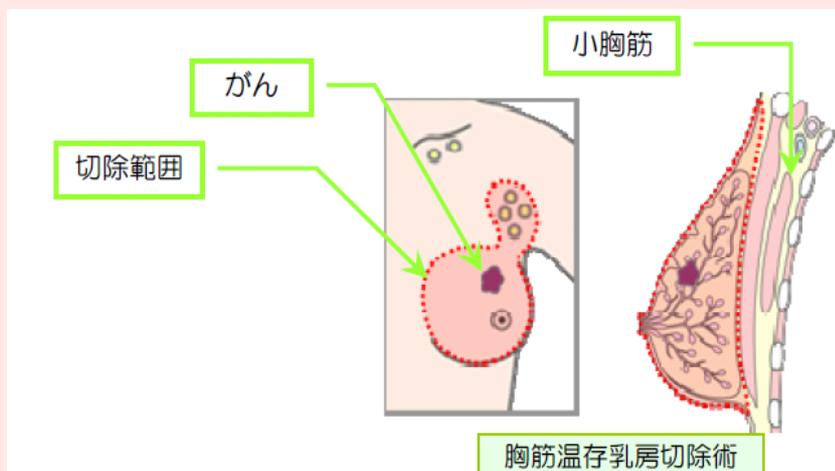
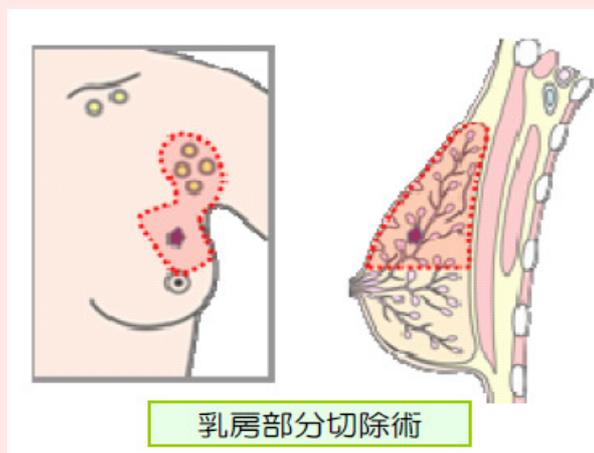
しこりがあった場合、細い針をしこりに突刺して吸引し細胞を含んだ穿刺液から、がんであるかを調べます。（穿刺吸引細胞診）

さらに多くの情報を得るために太い針を刺してしこりの一部の組織を採取することもあります（針生検）。

<治療法>

1) 外科療法

がんを含めた乳房の一部を、扇形または円形に切除して、乳房の正常部分をなるべく残す手術やがんのできた側の乳房を、皮膚を含めて全部切除する手術を行います。



2) 放射線療法

再発の抑制や、術前の腫瘍サイズの縮小のため等、手術に対する補助的放射線療法と、がんによる症状の緩和や延命目的の緩和的放射線療法があります。

3) 薬物療法（ホルモン療法と化学療法）

女性ホルモンの作用を妨げるホルモン剤を使ってがん細胞の増殖を抑えます。化学療法とは抗がん剤を使用してがん細胞を死滅させます。

<入院費～概算～>（10日間の場合）

1割・2割負担 44,400円（上限） 3割負担 240,000円

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<平成28年度当院データ>

手術入院患者数 44人 平均入院日数 8.3日

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、
医事課までお気軽にお尋ね下さい。

松阪市民病院